

【文化で生物を守る】消えゆく京都の古民家と「幻のイヨグモ」をまとめて一緒に守りたい！

ホーム 活動報告 17 支援者 43

消えゆく古民家と幻のクモ
まとめて一緒に守りたい！

～浮かび上がる家の中の生態系～

note 記事 シェアする Tweet

#社会課題 #生き物 #古民家 #SDGs

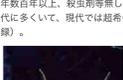
住むとほっとする家から幻のいきものが現れました

本プロジェクトは、国も個人にも守れない「幻のクモ」を古民家文化と共に保護する前例を作る取り組みです。みなさまのご支援で本種の生息地である貴重な古民家を賃貸しながら科学データを蓄め、価値の発掘と保護・保全をめざします。

「家は生き物」という今までにない視点で古民家に迫る、基礎研究です。

共に消えゆく生物と文化を一緒に守りたい

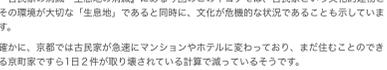
初めまして、起案者の深川博美と申します。私は、シナントロープ（一番身近な野生生物）の今昔を調べている在野の研究者です。昨年、京都市内の古民家（推定築年数百年以上、殺虫剤等無し、お隣は江戸時代創業の老舗味噌蔵）を引き払う途中、江戸時代に多くいて、現代では超希少種となった家屋性の「イヨグモ」を発見しました（京都初記録）。



▲江戸時代のイヨグモ

古民家とイヨグモは同の流れの中、解体や家庭用殺虫剤などでそれぞれ消えゆく存在です。「古民家の消滅＝生息地の消滅」にある今回のこのイヨグモは、古民家という文化的建物とその環境が大切な「生息地」であると同時に、文化が危機的な状況であることも示しています。

確かに、京都では古民家が急速にマンションやホテルに変わっており、まだ住むことのできる京町家ですら1日2件が取り壊されている計算で減っているそうです。



▲本物件裏の古民家7棟がマンション建設予定地に変わった場所から、囲まれて残された町家が写る。

そこで、国の多様性研究機関に相談をしたところ「プライベート空間に生息する生物の保護の前例がありません」とのみでした。無理もないかと思いつつも不平等な保存を致すておらず、予定を超えて生息地である物件維持をしながら調査を続けました。個人財源の限界にうなだれたところで、「これは、多くの方に生き物と古民家文化を共に守る提案をするタイミングなのではないか?」と考え至り、クラウドファンディングに踏み切りました。

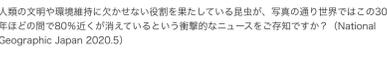
みなさまのご支援で古民家を賃貸し、期間内で科学データを蓄め、できる限界までこの世界の持つ価値を拾い上げさせていただけないでしょうか。

タイムリーに、この申請中「家は生態系」という書籍が出版されました。海外が事例ですが、この新しい時代、人生のほとんどを家屋で過ごす現代人を「ホモ・インドアス（屋内人）」とし、家の中の多様性が人の健康に大切であると考えられています。なかでも日本の住宅は高い多様性を有しているようであり、さらにそれが江戸時代を代表する居住者の多様性レベルであれば、消えゆくクモと日本の古民家に固有の価値が認められていると感じずにはおれません。

生き物と文化を共に守り、イヨグモの匂わずに謎に満ちた過去の家の多様性を解明する新しい世界に向けて、多くの方と一緒に一歩を進めたいと願っております。

世界的な昆虫の減少を、身近な家の虫で感じる

人間の文明や環境維持に欠かせない役割を果たしている昆虫が、写真の通り世界ではこの30年ほどの間で80%近くが消えているという衝撃的なニュースをご存知ですか? (National Geographic Japan 2020.5)



▲ photo by David Liittschwager

都会育ちのいきもの好きだった私はシナントロープを観察して育ち、90年代に動物の専門学校で野生生物の減少を知り衝撃を受けました。そのうち、自身の研究から「江戸時代の家の中の多様性」を、下記の写真の通り明らかにすることができました。（この中に現代では見られない生物がイヨグモ以外にも多くいます）



▲江戸時代の古文書から出てきた「昔の家の虫」の一部。圧倒的な採種数と個体数。

その時にはすでに、日本の住宅は気密性と化学物質で快適という時代になっており、イヨグモのような「かつての家の虫」は超希少種になっていました。虫を専門としても、激減した80年代からさらに江戸時代までさかのぼると減少を肌身で感じられませんでした。生物の減少はそれほど猛って「気づけないはず」です。

たとえば、みなさまは小学生の頃見ていたはずのミノムシやバッタ、ミヅバチを最近どれくらい見られましたか?

手元の自然は地球とつながっています。未来のために、『様々な角度から昆虫の激減を止めなければいけない』そう感じております。

ついに来た?! 「住のオーガニック」

そもそも日本家庭は自然素材で作られた環境に優しいオーガニックのようなものですが、そこへ生物多様性を加えてみます。

古民家の場合、木や土という有機物の古民家素材（化学物質の少ない時代に作られた貴重な素材）であるため、そこに長い半住人と共に作り上げた豊かな微生物屋（マイクロバイオーム）が作られているはず。家に入り込む「ほっとする」微生物がそこに隠れているのかもしれない。家に命が住み着き、その「命」には住人の身体も含まれる、これぞまさに「住のオーガニック（有機体）」です。

人を含んだ「生き物が生きていける空間とはなにか?」を考えさせられます。もし「江戸時代のような生活」を生物保護のために実践することができれば、シックハウスはもちらんのこと、近年急増している化学物質過敏症の方々のオアシス空間にもなれる可能性があります。このような社会問題に本プロジェクトならではのアプローチが可能です。

※「家の中の多様性」で語られる生物は、文化的価値を持つような古い物件にすまう昔ながらの生き物であり、すでにわたしたちが過去共生していた生物です。

ご支援の使い方とねらい

みなさまからのご支援は、イヨグモと古民家に関するデータ（生態調査・化学物質調査・顕生体調査等）収集の費用・調査期間の家賃・A-port手数料等に充てさせていただきます。

今回のプロジェクトで集めたデータから下記の展開をねらいます。

・幻の生物の文化を背景とした生態解明
・保護前例を作りイヨグモ保護可能な入居者を募ったり、環境維持（賃貸継続）ができる活動につなげる
・「住のオーガニック」に着目した古民家を残す改築方法の模索と実践への取り組み

※もう一押しのできるのであれば、文化的遺産庫（文化と共に息絶えが危うくなっている種を意味する本研究での呼称）の保護に関するNPO法人を設立し、本物件を本拠地にしたいと考えています。



▲イヨグモが現れた古民家

ご用意できるリターン

1 千円：お礼のメール
3 千円：お礼のしおり付きハガキ
1 万円：お礼のしおり付きハガキ、メールでの支援者様限定研究報告、起案者研究ホームページ（データベース）へのお名前記載
3 万円：家の虫のアドバイザー（1 年間程度でも）
8 万円：古文書昆虫学の講演

想定されるリスク

・期間内で生物を相手にすることから、イヨグモに関してはデータの取得が絶対可能と言えません。
・おおよそ問題ないと思われませんが、ご近所の殺虫や防虫作業、建築作業等で調査が延長してしまう可能性がゼロではありません。薬剤を控えて頂くようお知らせしていますが、あくまでご近所様のご理解と善意にお任せの申進めです。

最後に

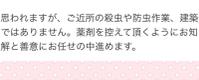
「え、家の虫?」
「はい!家の虫こそです」
遠く大きな、でなく、身近な文化と小さな自然。
これらは、ひとりひとりからこそ、磨練できます。

難しいことではなく、ちょっとした転機とちょっとした寛容で戻ってくる命です。

今の勢いにやむなく手放すさなかの古民家に現れた幻の蜘蛛が、総殺虫時代に「多様性」という逆の糸を垂らしてきました。

この糸の先にどんな世界があるのか、みなさまと共に進みたいと思っております。

研究色の強い文面を最後までお読みいただき、本当にありがとうございました。



▲イヨグモと同じ文化的遺産種のヤマトオサムシグモシ。無農薬の納豆を好む

支援期間終了

facebookでシェア Twitterでシェア

消えゆく古民家と幻のクモ
まとめて一緒に守りたい！ このプロジェクトが気に入ったらいいね!しよう

～浮かび上がる家の中の生態系～

このプロジェクトが気に入ったらいいね!しよう

フォローする

最新のプロジェクト情報をお届けします。

クラウドファンディングTOP > SDGs・社会課題 > 【文化で生物を守る】消えゆく京都の古民家と「幻のイヨグモ」をまとめて一緒に守りたい!

カテゴリからプロジェクトをさがす

アート | 本 | 映画 | 音楽・演劇 | パフォーマンス | 科学・テクノロジー | コミュニティ | フード
ジャーナリズム | ものづくり | スポーツ | 音楽 | 歴史・文化 | SDGs・社会課題 | 医療・福祉 | 動物・猫 | 犬・猫・動物 | 地域活性

ログイン

新規登録

クラウドファンディングとは

A-port寄付型

お問い合わせ

クラウドファンディングのTOP

よくあるご質問

利用規約

利用規約（寄付型）

プライバシーポリシー

特定商取引法に基づく表記

運営会社

メディア掲載情報

コラム

成功者の声

HOWTO

A-portからのお知らせ

ニュース

プロジェクト

A-port

The Asahi Shimban

A-portは朝日新聞社のクラウドファンディングサイトです